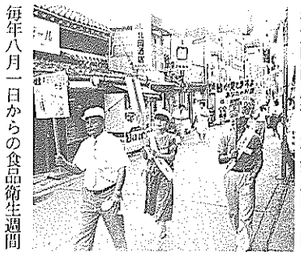
家庭でも 食中毒の撲滅を

食品衛生１日指導

食中毒を撲滅しよう―と、食品衛生週間中の八月五日に南国市食品衛生協会の皆さんら約三十人が後免町商店街をパレードしました。

夏は食中毒の発生しやすい季節、全国の発生患者の六十％は七月から九月の間に集中しています。幸い南国市ではここ数年食中毒は発生していませんが、油断は禁物と、毎年八月一日からの食品衛生週間中にパレードなどを展開しています。



後免町商店街を啓発パレード

この日は、家庭でも運動を展開してもらい、全般的に衛生意識の高揚を図ろうと「手洗いを励行しましょう」などと書かれたタスキを胸に市役所を出発。後免町商店街をパレードしながらちらしやティッシュペーパーを通行人に配りました。

広げよう福祉の輪

障害者の共同作業所を作る会親睦会

南国市に障害者の共同作業所を作る会（山本忠明会長）が会員相互間の親睦を深めようと八月七日に社会福祉センターで親睦会を開催、約八十人が参加しました。

共同作業所を作る会は今年六月に発足、現在会員数四百四十八人、二十三団体、奉加者四百九十二人と大きく輪が広がりつつあります。

今後共同作業所を作る会では市民に会のことを知ってもらうために、土曜市や土曜夜市へ参加するなど活動。障害者の掘り起こし、場所の選定などを行い、市民に邁

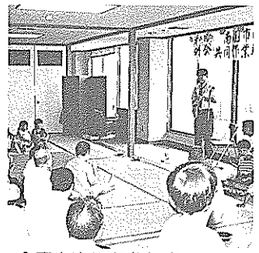
暑さを吹き飛ばす熱戦

子ども会／ソフトボール／ドッジボール／大会

市子ども会の第二十九回男子ソフトボール大会と第十八回女子ドッジボール大会が、八月十四日、香南中学校で開かれ、二十五チーム、約三百七十人の小学生が熱戦を繰り広げました。

これは、少年の健全育成の一環として、大会を通して健全な心身を養うとともに、相互の理解と親睦を図り子ども会の資質向上のために、市子ども会連合会、市教育委員会、青少年育成南国市民会議元できる地域に根ざした施設を考えていく方針です。

この日は親子連れなど約八十人が参加して腹話術やマジックなどを楽しんだ後、懇親会を行い、日ごろの悩みなど意見交換をしていました。



余興を楽しむ参加者

の主催で毎年開かれているものです。

真夏の太陽が照りつけるなか、子供たちは暑さを吹き飛ばしてグラウンドに体育館にはつらつとしたプレーを展開。各チームに力の差はなく、接戦が続きました。

競技の結果は次のとおりです。

○ソフトボール（参加十六チーム）

①稲生連合②後免ファイターズ③長岡連合

○ドッジボール（参加九チーム）

①久礼田パラダイスハリケーン②国府連合③大篠連合

繰り出し、金魚すくいなどを楽しみました。

これは商工会後免支部が一昨年から行っているもので、すっかり市民に定着。提灯に火がともるころになると浴衣姿の親子連れなどが続々と詰めかけていました。

初日の八月六日には、まずまほろば囃子で夜市の気分を盛り上げました。その後商工会の主催で、宝探しやじゃんけん大会が開かれ、ちびっ子たちの歓声が響いていました。

暑さのなか元気いっぱいにプレー

土曜夜市

浴衣姿の親子連れでにぎわう

商店街の活性化を図ろうと、恒例の土曜夜市が八月六日から八月二十日まで開かれ、大勢の市民が

夜店のヨーヨーつり

土曜市が友情出店

近永日曜市六周年

土曜市の出店コーナー

南国市の土曜市と姉妹市提携をしている愛媛県広見町の近永日曜市（毛利範男実行委員会長）が六周年を迎え、八月二十一日に記念市を開催、土曜市からも出店し、交流を行いました。

広見町（中谷嘉文町長）は人口約一万二千七百人、面積の八十％を山林が占める農業主体の中山間地域です。

商店街の活性化のために日曜市、そうめん流し、いもたきを三本柱とする「トロイカイベント」を行っており、毎月第三日曜日には町の中心部の会場に約二十店が出店して日曜市が開かれています。

五十九年に高知県を視察した近永日曜市実行委員会のメンバーは、庶民的な当市の土曜市に注目、姉妹市提携を申し込みました。土曜市組合（中村朋子会長）では「行政との連携や熱心さなど学ぶ点も多い」として同年、近永日曜市の一周年記念の際調印。土曜市のさつき祭や両市の周年記念市、広見町の産業祭などに互いに出店するなどの交流を行ってきました。

この日も土曜市から約二十人が広見町に出向き、サンゴや打ち刃物、みかん、しょうがなどを販売、人気を集めていました。

四国学童 軟式野球で優勝

十市ファイターズ

十市ファイターズ（武市慎一監督、選手十四人）が八月十八日、十九日に徳島県鳴門市営球場で開かれた第八回四国学童軟式野球大会で優勝、二十日に市役所を訪れ、小笠原市長に優勝報告をしました。

十市ファイターズは結成されて六年、第四回大会でも優勝した実績を誇るチームです。

大会では応援に駆けつけた田内稔十市小学校長が「普段では考えられないようなパワーにびっくりした」というほどの熱戦を繰り広げ、決勝戦に進出。香川県の太田タイガースを九対一で下して優勝しました。

二十日に市役所で行われた戦勝報告では、市長が「高校生になったら甲子園に行けるぐらいにがんばってください」と激励しました。

その日の夕方には十市をパレード、体育館で地元主催による祝賀会に臨みました。

六年生が主体のチームで、現在の十市ファイターズとしてはこの大会が最後、それもあって優勝を果たした選手はほんとうにうれしそうでした。祝賀会であいさつたった武市敏キャプテンは「一生の思い出になります。苦しいときもこのことを思い出してがんばりたい」と話していました。

市長に優勝を報告

あゆみ もう起きちゃうよ

家庭教育専任講師　田植　静代

お母さんと三歳くらいの男の子が、二人で手をつないで楽しそうに散歩をしていました。

ところが何を思ったのか、急に三歳の男の子は、お母さんの手を振り切って前の方へ走り出しました。

「太郎ちゃん、危ないよ。ころびますよ。太郎ちゃん、危ないよ。」と、お母さんは慌てて大きな声で言いました。

太郎ちゃんは知らん顔で、楽しそうに飛び跳ねていましたが、お母さんが心配していたとおり、何かにつまずいて、パタッと転んでしまいました。

太郎ちゃんは一人で、さっと起き上がりません。けがでもしたのでしょうか、そうでもないようです。泣きもせず、首を持ち上げて、少し離れているところから必死に走ってくるお母さんに向かって、次のように叫んでいました。

「ママ、早く早く、早く来ないと僕もう起きちゃうよ。」

お母さんが来るまで、太郎ちゃんは、お母さんのために起きるのをやめて待っていました。

「ただいま、お母さん。今日忘れものをしたよ。いやだなあ。」

「あらそう。何を忘れていたの。」

「国語の漢字帳が入っていなかったじゃないか、もう。気をつけてよ。」

「えっ、漢字帳。ごめんなさい、ごめんなさい、今度からよく注意するからね。許してよ。」

「うん許しちゃろ。気をつけてよ。」

「はい、このことお父さんにはないしょにしてちょうだいね。」

これは三年生の子供が、学校から家へ帰って来たときの親子の会話です。

あなたはお子さんの奉仕者になっておられませんか。

親は子供のためなら、身を犠牲にしても尽くしたい気持ちを持っていますが、本当に愛しているなら、できるだけ自分の力で出来るように見守り、助けが必要かそうでないかをよく見極めて接したいものです。

子供が心から親を欲しているときにそれを感じず、親の気分や感情で冷ややかに突き離すと思えば、離れて見守らなければならないのに、おせっかいをやいたりやたらと介入するのは慎まなければなりません。